

① 千円
② 夕ごはん
③ 見学

④ きゅうじつ
⑤ かなづち

② ① イ
② ア

③ A イ
B エ
④ エ

⑤ ちよつと

③ ① ウ
② オ
③ カ
④ ア
⑤ イ
⑥ エ

④ ① エ

② 大きくておもい

③ 走って

④ エ
⑤ ウ

⑥ めんどう

| 配点 | |
|---------|------------|
| ① | 各2点×5=10点 |
| ②~④ | 各5点×18=90点 |
| <計>100点 | |

① ③の「見」を「貝」のように書かない。

②

- 1 「キャラバンが」―塩を―はこんでいる」というくみたてになっている文である。
- 2 さばくを「海」にたとえているのだから、海に行くものになる。
- 3 Aは、「地図やじしゃく」と「とけい」をならべている。Bは、「だいたいつたえられてきた」と「よくおぼえていて、まちがわずに」とのつながりをかんがえる。

4 「あてはまらないもの」をえらぶことに気をつけること。「ひる」は「周囲の地形や太陽の位置から」、「よる」は「星をたよりに」と、はっきり書かれている。ラクダはさばくをたびするのによくだが、すすむ方向やじこくをおしえてくれるわけではない。

5 さばくの中の土地のようすが書かれているところである。キャラバンの人たちがおぼえている「地形」ということになる。

③

- ① 「ような」とむすびつく。
- ② 「ない」とむすびつく。
- ③ 「だろう」とむすびつく。
- ④ 「なら」とむすびつく。
- ⑤ 「ても」とむすびつく。
- ⑥ 「ください」とむすびつく。

④

1 アーウは、鼻が大きくてあなにおちてしまう人だから「ムシャノコウジガワさん」である。エは、たすけに行くのは「めんどうだ」といった人である。

2 ふつうの鼻の人なら、じぶんの方でもちあげることができるはずである。

3 「いそいで」に注目すると、すこし前にも「いそいで」とあり、そのあとに「みんなで走って行っては」と書かれている。

4 「野原でピクニック中の人」とならべられている。このことは「もちろん、…」の文の中にもあり、その文では「耳がおかかったり」とならべられている。

5 かねの音をきいてたすけに行くのだから、かねは「ムシャノコウジガワさん」があなにおちたことをしらせてくれているのである。

6 「この人」が「めんどうだな」と言ったわけを書いているところである。